

キウイフルーツ特報 No.3

R7.6.17

JA 中野市園芸課

JA 中野市キウイフルーツ研究会

5月21日夕方に降雷があり、キウイフルーツ農園でも強風・降雷による被害を多数確認しています。被害に遭われた皆様に今一度お見舞い申し上げます。下記の雹害後のケアを参考に、樹勢の維持と来年以降の生産に繋げていただくようお願い致します。

【2025 キウイ生育調査】間山定点圃場

2025 生育 発芽：4/12 展葉：4/19 開花：6/5 満開：6/8 落花：6/11

生育は、平年並み～やや遅めに進んでいます。

病害虫防除 病害虫の防除は、予防を意識し早めの散布を行いましょう

①7月上旬の散布 目安：7月10日頃

①7月上旬の散布		目安：7月10日頃	散布日	7月	日
散 布 薬 剤	水	100ℓ 当たり	散布量	ℓ	
	展着剤	10ml			
	ダコニール 1000	100ml	(60 日前、7 回)		
対 象 病 害 虫	果実軟腐病				
散 布 量	350ℓ / 10a ＊若木の場合、樹体にしっかり薬液がかかる量を散布する				
注 意 事 項	① 主幹部のコウモリガ食入は針金等で刺殺する。 ② 【代替】ダコニール 1000 に代えてベンレート水和剤 2,000 倍（7 日前、5 回）でも良い。 ③ 【カメムシ対策】カメムシの吸害が心配される場合は、アディオン乳剤 2,000 倍（7 日前、5 回）を加用する。				

【夏季管理講習会の開催について】

日 時 : 7月3日(木) 午前 10 時
集合場所 : 日野集出荷所
内 容 : 新梢管理について(芽かき、誘引、摘心)
雹害果の摘果について

【5月下旬の強風・降雷後のケアについて】

現状、傷の見られる花や果実を全て落としてしまうと今年の収穫量が減り、樹勢のバランスが崩れてしまいます。雹害果の被害程度が明らかになるまで摘果を遅らせるようお願い致します。また、適度に着果負荷をかけ樹勢を保ち、来年以降の生産に繋げていきましょう。

2. フルメット液剤処理

高品質生産に向け、適期に適正なフルメット液剤処理を行いましょう。

①処理時期目安

・赤肉・黄肉系品種（レインボーレッド／ゴールド）

開花日	20日後	25日後	30日後
5/25	6/14	6/19	6/24
5/26	6/15	6/20	6/25
5/27	6/16	6/21	6/26
5/28	6/17	6/22	6/27
5/29	6/18	6/23	6/28
5/30	6/19	6/24	6/29

・緑肉系品種（ハイワード）

開花日	20日後	25日後	30日後
6/4	6/24	6/29	7/4
6/5	6/25	6/30	7/5
6/6	6/26	7/1	7/6
6/7	6/27	7/2	7/7
6/8	6/28	7/3	7/8
6/9	6/29	7/4	7/9

② 処理方法 処理は年1回だけです。時期に応じて濃度を調整して下さい。

処理時期	処理濃度	処理方法
開花 20～25日後	2.5ppm (水4ℓにビン1本10ml)	果実浸漬処理
開花 25～30日後	5ppm (水2ℓにビン1本10ml)	果実浸漬処理

③処理上の注意

- ・処理後に降雨がない日を選ぶ。乾ききる前の降雨で効果が低下する。
- ・着果量が多いと樹体への負担が過剰となり、樹勢低下や隔年結果の原因になりやすい。
⇒樹勢に応じた処理と適正着果量に摘果を行う必要がある。
- ・処理濃度が高かったり処理時期が早かったりすると、過度に果実が肥大し、変形果や糖度不足等の問題が生じやすい。
- ・奇形果として、果頂部の突出や扁平果、果梗部の亀裂の発生などがあり、果肉の軟化や落果なども生じやすいので注意が必要である。